

ひとり親世帯に建設人材研修

資格取得支援で入職促進

ひとり親世帯の就業支援を目的とした「建設人材育成研修コース」が9月9日から29日まで行われた。(公社)沖縄県母子寡婦福祉連合会が県の委託を受けて実施したもので、(一社)沖縄県中小建設業協会女性部が協力した。講義や現場見学、ICT建機体験などを通して建設業への理解を深め、就業につなげることを目的に行われた。

今回の研修は2年前のプログラムをベースに、より実践的な内容へと進化させた。前回

心だったが、今回はICT建機の実習や小型移動式クレーン免許取得など実務に直結する内容を加え、研修期間も約3週間に延長。座学では安全教育に加え、基礎講義も行い、最新の建設技術を学ぶ機会をつくった。

初日のオリエンテーションでは、県母子寡婦福祉連合会事業推進

部の小那覇涼子部長が「女性も多く活躍している業界であり、今回は技術者育成を目的にした研修」とあいさつ。沖中建の名嘉山勝会長は「建設業は、もはや男性だけの世界ではない」と強調。沖中建女性部の松田由紀子部長は「現場での女性活躍やIT技術の進化を体験し、建設業の魅力を知ってほしい」と呼びかけた。

研修期間中はコマツカスターサポート機の協力でICT建機の実技講習を実施。参加者は自動制御による整地や安全支援機能を備えた最新建機を操作し、従来の作業との違いを体感した。また、協成建設が施工する糸満市の「福地第1地区ほ場整備及び畑地かんがい施設工事(R6)」で安全パトロールに参加し、安全管理の要点を学んだ。また危険予

知活動(KY活動)も体験し、グループごとに危険要因を洗い出し対策を考える演習を行った。さらに小型移動式クレーンやフルハーネス、救命などの実技講習が行われ、全員合格して免許を取得した。

29日の閉講式で沖建の三枝利郎副会長は「建設業はデジタル化が進み、資格を取得すれば評価される世界。今回の経験を次のステップにつなげてほしい」と激励。その後、沖縄県母子家庭等就業・自立支援センターの与那嶺清子所長が受講生一人ひとりに労いの言葉をかけ、修了証を手渡した。

新里由紀さんは「とても充実した研修で、分からないことも講師の方が丁寧に教えてくれた。将来の転職時に生かしたいし、もっと学んでみたい」と語った。大城清美さんは「女性性が活躍している現場を見て、業界の印象が180度変わった。建設業は厳しいというイメージがあったが、現場の雰囲気は温かく、女性部の皆さんのサポートも心強かった」と振り返った。伊禮麻瑠子さんは「毎日が新しい発見の連続で、さらに多くの資格を取りたいという気持ちが芽生えた。貴重な経験をさせてもらい感謝している」と謝意を示すとともに、今後の取り組みに意欲を見せた。

松田部長は「仲間と力を合わせ、人々の役に立つのが建設業。この研修で皆さんが見せてくれた真剣な姿勢に、私たちも多くを学んだ。少しでも魅力や、やりがいを感じたなら、ぜひ建設業に入職してほしい」と話した。



指導員に教わりながら小型移動式クレーンの実習に取り組んだ



安全パトロールで現場の説明を受ける受講者



修了証を手にする受講者ら